

終了報告書

NPO ハロハロ マニライインターン（2018年7月~2019年5月） 反田遥南

インターンでは、生計向上、日本語教室、スタディツアー、イベント、PRと幅広く活動させていただきました。本報告書では、数々の活動の中で難しさを感じた経験と、達成感のあった経験をそれぞれ一つずつ厳選して報告いたします。

最も国際協力の難しさを感じた経験は、私が担当していた生計向上プロジェクトです。生計向上では、プロジェクトの仕組みを作ること、お母さんたちが計画的に作れるようになること、楽しく作ってくれることを意識していました。10か月間関わって、お母さん達の技術の成長を感じたり、積極的に意見を言ってくれるようになったことが嬉しかった一方で、解決できなかった問題もあり、困難も沢山ありました。このプロジェクトの中心はお母さん達であり、本来、私達インターンシップはあくまでもオブザーバーという立場で、アドバイスをしたり、代表への報告することが仕事です。しかし、実際は、ミーティングでインターンが前に立って話すことが多くあり、また、お母さん達もわからないことや要望があるとインターンを頼ってきていました。私は、その状況をどうにか改善したいと思ってはいたものの、最後まで改善することはできませんでした。お母さん達も私達もプロジェクトの仕組みについてわかっていないことが多かったことが原因だと思います。私も、インターンシップを終える最後の時期まで、理解しきれていない部分がありました。お母さん達の中に自分たちだけでやっていこうという意識もまだあまりなかったのではないかと思います。インターンシップの期間が終わり、振り返ってみると、私がもっと積極的に仕組みづくりや、意識づくりに取り組めばもう少しプロジェクトがスムーズに動いたのではないかと感じ、後悔しています。しかし、生計向上の担当者になったことで、商品の提案をしたり、書類の作り方を学んだり、フィリピン人のお母さん達と仲良くなれたりと様々な良い経験もすることが出来ました。生計向上プロジェクトに限らず、他の活動でも初めてのことばかりで失敗も後悔も沢山ありますが、それを経験したことで学びがありました。

達成感を感じた経験は、スタディツアーです。インターンシップを始めて間もない頃開催した初めてのスタディツアーは今でもよく覚えています。その時のインターン2人はどちらも初めてのスタディツアーでよく分からないまま、スカラーや先生に任せていましたが、当日は音信不通で来ないスカラーが居たり、家庭訪問先の家族が居なかったりとハプニングだらけでした。ゲストの方々には申し訳なく、恥ずかしかったです。その経験から、スタディツアーの担当インターンを中心にやり方を改善したり、しっかり準備をするようにな

りました。その後、スタディツアーでゲストの方々が、良い感想を述べてくれることが多くなりました。ゲストの方が、学びがあった、興味を持った、楽しかったなどの感想を言ってくださったときは本当に嬉しかったです。また、私自身も、ゲストの方と仲良くなったり、事業地について学ぶことが出来たりと楽しんで活動することが出来ました。私が担当していた事業ではないので、細かい事務作業やスカラーへの声かけをしてくれていた担当者の努力が大きいですが、少しでも関わることが出来て良かったです。

私は、大学で国際協力の勉強をしており、実際に支援をしてみたいという思いからハロハロでのインターンシップをすることにしました。実際にやってみると、成功よりも失敗や難しさの方が多く、良い支援、必要な支援って何なんだろうと考えるきっかけになりました。現地の人々と直接関わり、支援に携われたことは貴重な経験です。ハロハロの皆さん、パラランパンタオの皆さん、スカラー、お母さん達、地域の人々、関わってくれたすべての人に感謝しています。ありがとうございました。

